

IAUD Newsletter vol.15 第5号(2022年8月号)目次

1. IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介⑥.....1
2. IAUD 国際デザイン賞 2022 募集のご案内..... 11
3. Include 2022 開催のご案内..... 12
4. UD 検定オンライン第26回初級及び第16回中級開催のご案内.....12
5. IAUD 2022年8月の予定.....13



革新的な UD 活動を国際的に表彰

IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介⑥

IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介の第6回目は、公共空間デザイン部門金賞を受賞した Inkl. Design GmbH (ドイツ)の「Stone Age in modern: A Fully Inclusive Museum Experience at the Neanderthal Museum Mettmann(現代の石器時代:メットマン市ネアンデルタール博物館でのインクルーシヴ体験)」と、地域計画部門金賞を受賞した公益財団法人河野臨牀医学研究所/品川区/株式会社梓設計(日本)の「品川リハビリテーションパーク・品川区立大崎図書館」です。



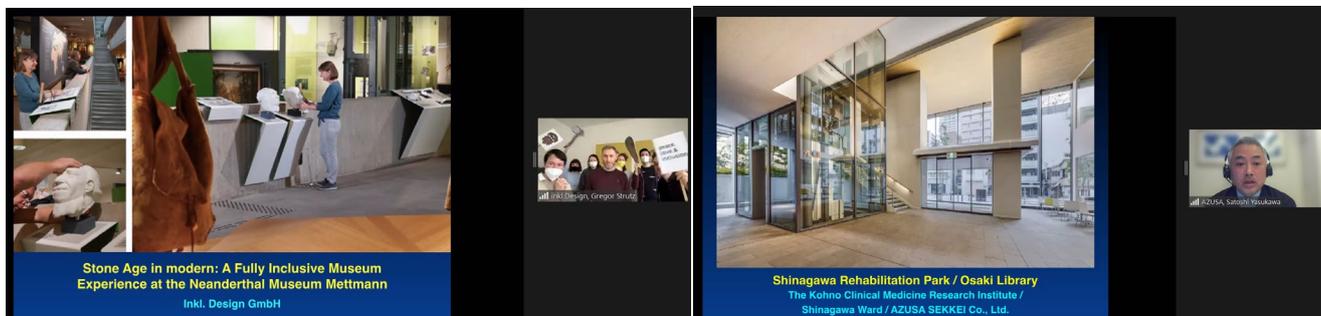
オンニ・エイクハウグ審査委員長(EIDD デザインフォーオール・

エイクハウグ審査委員長

ヨーロッパ理事)は「Stone Age in modern」について、「アクセシビリティとユーザビリティの要素をまとめ、見事に実践している好事例。この博物館には多感覚を使う機会が豊富にあり、楽しい展示デザインの明快さに説得力がある」と評価しています。

また、「品川リハビリテーションパーク・品川区立大崎図書館」については、「興味深い官民パートナーシッププロジェクトに複数の関係者を連携させた、インクルーシヴな建築デザインプロセスの素晴らしい成功例。子供たちと高齢者、双方に豊かな社会的つながりを生み出しており、この建築に生命を吹き込んでいる」と評価しました。

今号の IAUD Newsletter では、「Stone Age in modern」の取り組みを Inkl. Design GmbH の Franziska Müller 氏に、「品川リハビリテーションパーク・品川区立大崎図書館」の取り組みを株式会社梓設計の松竹 祐介氏に紹介していただきます。



2022年1月にオンラインで開催された IAUD 国際デザイン賞 2021 プレゼンテーション/表彰式の様子

※IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞結果は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2021 審査講評は[こちら](#)をご覧ください。



ネアンデルタール博物館内の様子

ネアンデルタール人及び400万年の人類史を展示

ドイツ西部メットマン市にある「ネアンデルタール博物館」は、ネアンデルタール人※及び人類の歴史に関する展示を行っている博物館で、1856年に世界初のネアンデルタール人の骨が発見された場所のすぐ近くに位置しています。

同博物館ではすべての人に展示を楽しんでもらえるよう、ネアンデルタール人の暮らしや文化、さらには400万年の人類史全般について、最新のコミュニケーション手段を導入して紹介しています。



ネアンデルタール博物館

※ネアンデルタール人:学名ホモ・ネアンデルターレンシス。約4万年前までユーラシア大陸に住んでいた旧人類の絶滅種。

多様な能力の人々や幅広い年齢層に対応

芸術や文化は、誰もが楽しめるものでなければなりません。しかし、現在の博物館は障害者に十分な体験を提供できていません。

そこで、同博物館は既存の展示を主に視覚障害者のニーズに合わせつつ、すべての人が同じように楽しめるよう、2021年に全面的に改修してインクルーシブな博物館を実現しました。

インクルーシブなナビアプリケーションや多くのハンズオン展示(実際に手で触れるなどの体験を通じて理解を深める展示)、インタラクティブなオンラインゲーム、床誘導システムなどを導入し、視覚障害者や学習障害者など多様な能力の人々や、子どもから大人まで幅広い年齢層すべてが、館内を自分で移動でき、展示内容を簡単に理解できるようデザインされています。

すべての人が楽しめるための様々な工夫

・展示内容を紹介するアプリ

館内にある21の展示コーナーすべてを案内する音声ガイドとゲームを1つにまとめた無料アプリケーション「ネアンデルタール人の記憶」を開発しました。

来館者は入口にあるQRコードからスマートフォンにアプリをダウンロードすると、各展示コーナーを訪問するたびに自動的にコンテンツが読み込まれるようになっています。

音声ガイドは、視覚障害者のネアンデルタール人「ナミ」がナビゲーターです。展示内容を「ナミ」の視点から紹介しており、来館者は視覚障害者の視点で展示を見学することができます。

オンラインゲームは、子どもから大人まで幅広い年齢層に対応しており、誰もがゲームをしながら楽しく展示内容や人類史を理解できるようになっています。



入口にあるQRコードからスマートフォンにアプリをダウンロード



誰もが楽しめるオンラインゲーム「ネアンデルタール人の記憶」

・点字と高コントラスト文字

視覚障害者も理解しやすいよう、館内にあるすべての案内を点字及び触れることで理解できる高コントラストの触覚文字で表示しています。



すべての案内は点字と高コントラスト文字で表示されている

・ハンズオン展示

すべて人に理解しやすいよう、触ることで展示をより理解できるハンズオン展示モデルを多数作成しました。

例えば、1856年に同博物館近くで発見されたネアンデルタール人の骨の実物大モデルや、石器時代の道具や人類の顔、大型類人猿ボノボの足などです。

来館者は実際に触ることにより、視覚的および触覚的に理解したり比較したりできます。

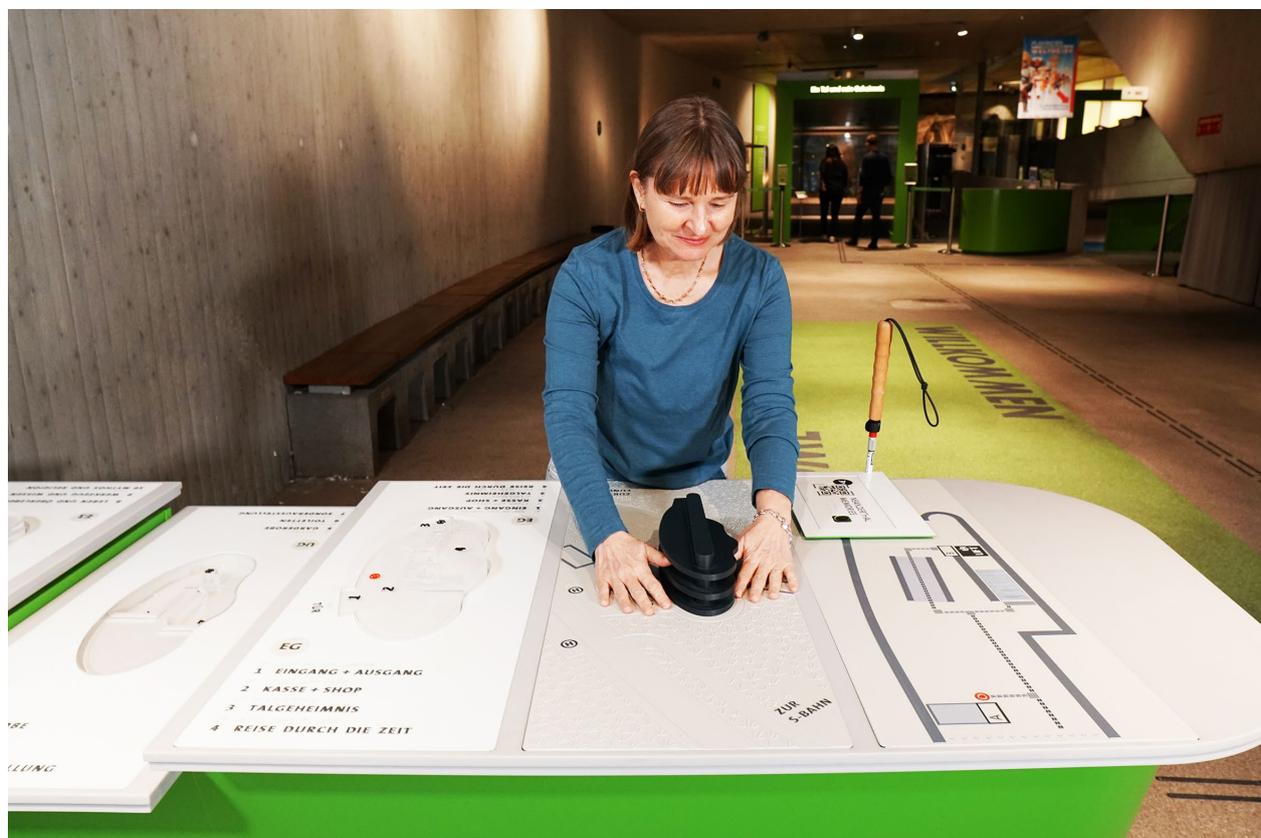


石器時代の人類のハンズオン展示



石器時代の道具の実物大ハンズオン展示

博物館入口には、建物全体の模型のハンズオン展示があります。らせん状の建物は DNA 二重らせんの巻きつきを連想させるなど、このような方法でも博物館のコンセプトを理解してもらおうようになっています。



らせん状になっている博物館の模型

・誰でも快適に館内移動が可能

21ある展示コーナーの入口には、白杖を立て掛けるホルダー、QRコード画像、触覚文字で表示されている展示案内図が設置されています。

杖ホルダーにより、視覚障害者は展示を安全かつ快適に楽しむことができます。また、通路や展示位置は来館者の体格や姿勢、車椅子使用などに関係なく、すべての人が簡単にアクセスできるようデザインされています。

さらに、すべてのハンズオン展示は壁側に設置されており、視覚障害者でも簡単に見つけることができます。



視覚障害者用の杖ホルダー(写真左)とすべての人にアクセスしやすい位置に設置されている案内表示

・床誘導システム

博物館全体にハイコントラストの床誘導システムを導入し、視覚障害者でも自立して移動できるようになっています。

このシステムは博物館のイメージを損なわないよう、美しく高品質なデザインを採用しています。



視覚障害者もアクセスしやすいよう設置された床誘導システム

デザインプロセス全体に障害者も参画

すべてのデザインは、視覚障害者及び障害の専門家と共同で進められました。そして、障害者にどこで何を案内すべきか、どうすれば行きたい場所に行くことができるのか、当事者と何度も検証しました。

開発プロセス全体にわたる障害者との共同作業により、当事者からの貴重な意見が多く反映されました。

現在も、コンセプトの継続的な見直しと改善を行っています。

来館者からは、「人類の進化についてわかりやすく楽しく学べた」「視覚障害があるが、生まれて初めて博物館の展示をよく理解できた」などの感想が寄せられており、大変喜んでいただいています。

※Inkl. Design GmbH に関しては[こちら](#)をご覧ください。



障害者も楽しめる博物館に



都市の新たな憩いの場となる複合施設

地域計画部門金賞：品川リハビリテーションパーク・品川区立大崎図書館
公益財団法人河野臨牀医学研究所／品川区／株式会社梓設計(日本)



病院+介護老人保健施設+図書館の複合施設「品川リハビリテーションパーク・品川区立大崎図書館」

病院＋介護老人保健施設＋図書館の複合施設

東京都品川区に2018年にオープンした「品川リハビリテーションパーク・品川区立大崎図書館」は、都心再開発エリアの区立小学校建替えによる空地を活用した、全国的にも珍しい病院と介護老人保健施設、そして図書館の複合施設です。

複合施設のメリットを活かし、医療・介護・在宅介護のシームレスなサービスを提供することで、都市型地域ケアの拠点を構築するとともに、図書館や隣接する小学校と連携して地域に貢献できる施設を目指しています。



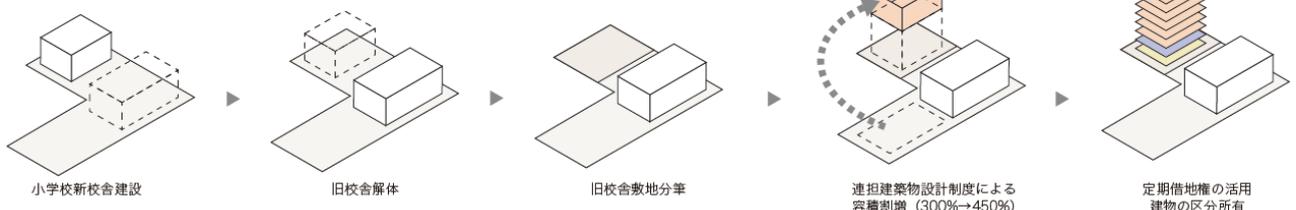
(左上から時計回り) 介護老人保健施設のレクリエーションルーム、病室・療養室、図書館

UDに関する3つの特徴

①官民一体の複合施設:同施設は、隣接する区立御殿山小学校の校舎建替えにより生じた用地を分筆し、定期借地権を活用して区有地に民間事業者が施設を建設した、官民連携プロジェクトです。

地上8階、地下1階の建物は、1階が病院外来機能、2階が図書館、3・4階が介護老人保健施設の療養室、5～7階が病院の病室で構成されています。

隣接する小学校と同施設→



事業スキームのイメージ

②新たな地域拠点施設に:オフィスや住宅を中心とした都心再開発エリアに、施設内外の人々に親しみをもって受け入れられるようなデザインになっています。

外観は重層する軒と植栽による構成で統一し、重層する軒は地域とつながる透明感のある表情をつくるとともに、街ゆく人々へ温かみのある景観を提供しています。

バルコニーの植栽は無機質になりがちな上層部の病室や療養室に彩りを与えるとともに、街にも潤いを与えています。

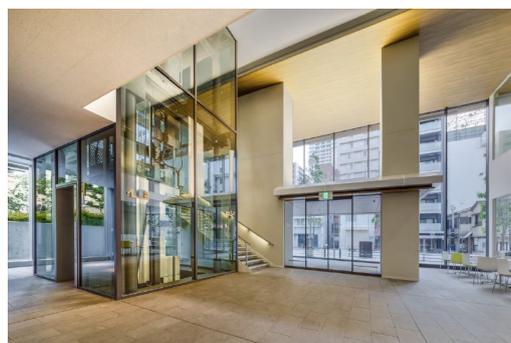


(左から)地域に開かれたエントランス、街並みに潤いを与えるバルコニー植栽、ベットからも緑が見える病室

③有事に効果を発揮:建物1階にある共用エントランスホールやリハビリスペースを、予め災害時の福祉避難所*となるよう設定しています。

さらに、複合施設の各用途を完結し、利用者間の交錯のない1フロア完結型で設計しているなど、有事を含む柔軟な運用をサポートしています。

*福祉避難所:避難行動要支援者が避難生活をするための特別な配慮がなされた避難所。小学校などの一般の避難所にいったん避難した後、必要と判断された場合に開設される。

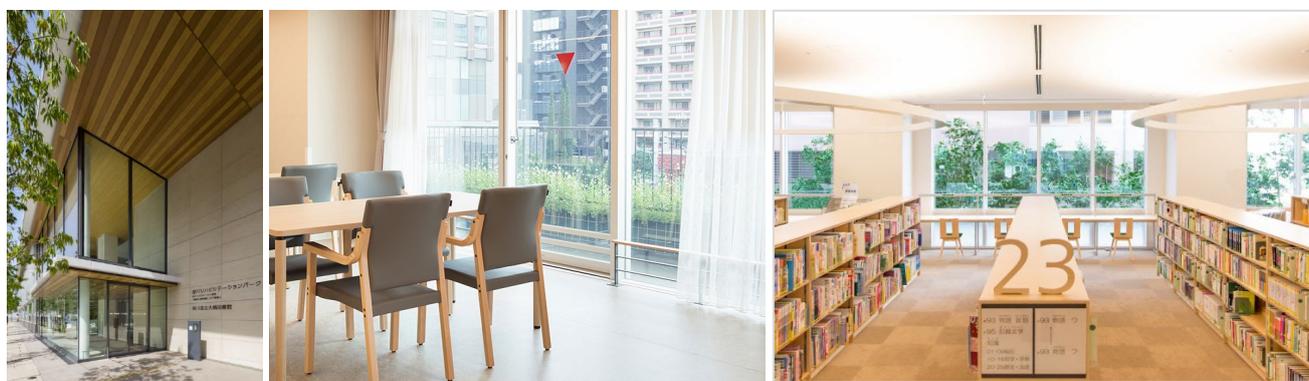


福祉避難所にもなる共用エントランスホール

都市の公園で憩う

同施設は、「公園」のように気軽に立ち寄りやすく、人々の心と身体のリハビリテーションに役立つ「リハビリテーションパーク」を目指しています。

「都市の公園で憩う」を設計コンセプトに、病院、介護老人保健施設、図書館がばらばらに存在するのではなく、「憩い」を軸として、3施設が包括された場をつくりだしています。



(左から)人をやさしく迎えるエントランス、バルコニーの緑が見える病棟デイルーム、小学校の緑を借景とした児童書コーナー

地域拠点としての様々な連携活用

3 施設の連携を図るため、エントランスホールは共用として、イベントや非常時にも活用できる場となっています。

エントランスホールに隣接するリハビリ室では、健康講演会や古本市などのイベントを開催しています。

また、病院・介護老人保健施設フロアでは、図書館の資料を巡回する貸し出しサービスを常時行っています。

さらに、隣接する小学校児童のための病院・介護老人保健施設への職場見学会や、近隣の中学生の看護体験などの学習の場も提供しています。



(左上から)リハビリ室、リハビリ室での健康講演会と古本市、病院フロアへの図書貸し出し、職場見学会

災害時には、エントランスホールをトリアージスペース(重症・軽症等を選別)、リハビリ室を福祉避難所として活用し、近接する急性期病院や避難所である小学校と連携を図ります。

さらに、防災備蓄倉庫や 72 時間の非常用発電機を備え、有事の際の防災拠点の一翼を担い、地域医療に貢献する計画です。

また、新型コロナウイルス感染症のパンデミック時には、エントランスホールを臨時的 PCR 検査会場やワクチン接種会場とするなど、新たな形で有効活用されています。



エントランスホールを仮設の PCR 検査場とワクチン接種会場に活用

住民の健康寿命を伸ばすことを目指して

官民一体で様々な手法を活用することで、用地取得の難しい都心に病院から在宅までの一貫したリハビリテーション施設を実現し、住民の健康寿命を伸ばすことを目指しています。

運用においても官民が連携しており、健康イベントの開催や子どもたちへの学習の場の提供など、行政のみや民間のみでは難しい新たな試みも積極的に行っています。

さらに、入院・入所者へのサービス向上を第1目標に計画した1フロア完結型の病棟・療養フロアは、コロナ渦においては患者・入所者の移動を限定した運用を可能にし、いつでも安全・安心な施設が実現されています。

※品川リハビリテーションパーク・品川区立大崎図書館の詳細は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2021 表彰式開催報告及び IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介①は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介②は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介③は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介④は[こちら](#)をご覧ください。

※IAUD 国際デザイン賞 2021 受賞紹介⑤は[こちら](#)をご覧ください。



持続可能な共生社会を目指して

IAUD 国際デザイン賞 2022 募集のご案内

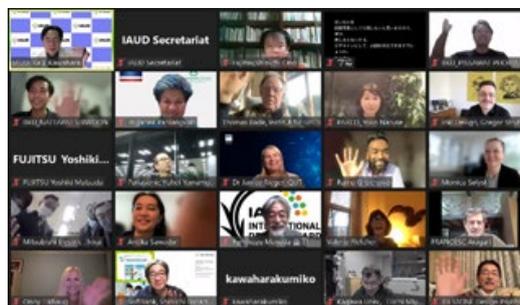
IAUD は、一人でも多くの方が快適で暮らしやすいUD社会の実現に向けて特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体・個人を表彰する「IAUD 国際デザイン賞 2022」の募集を開始しました。

今回で12回目となる「IAUD 国際デザイン賞」は、毎回、個人的なプロジェクトから企業による大規模なプログラムまで国内外より多くの応募があり、これまでに UD への理解の高まりを実証するような、優れた活動や製品が受賞してきました。

選考は英国、米国、ドイツ、ノルウェー、スペイン、タイ、日本を代表する9名のUD専門家から構成されるIAUD 国際デザイン賞 2022 審査委員会により行われ、最も優れていると判断したものに「大賞」、部門別に「金賞」「銀賞」「銅賞」の授与を予定しています。

第1次審査応募締め切りは8月31日(水)です。皆様の応募をお待ちしております。

「IAUD 国際デザイン賞 2022」詳細は[こちら](#)をご覧ください。



オンラインで開催された「IAUD 国際デザイン賞 2021 プレゼンテーション/表彰式」

インクルーシヴデザインと人間中心の創造的アプローチ Include 2022 開催のご案内

IAUD の友好団体である Helen Hamlyn Centre, Royal College of Art(英国王立芸術大学院ヘレンハムリンセンター)は、国際会議「Include 2022」を9月22日(木)と23日(金)にオンラインで開催します。



「Include」は、インクルーシヴデザインと人間中心の創造的アプローチにフォーカスした国際会議で、2001年から2年に1回開催されています。

11回目となる今回は、「Unheard Voices」をテーマに、8つのセッションや論文発表などを通じて、デザイン主導のアプローチが社会的課題に対して果たす役割について考察します。

ご興味のある方は[公式ウェブサイト](#)をご覧ください。

UD 在宅で好きな時に UD 資格習得 検 定 UD 検定オンライン第26回初級及び第16回中級開催のご案内

IAUDは「第26回UD検定・初級」及び「第16回UD検定・中級」をオンラインで開催します。

「UD 検定・初級」は、UDに関する基礎的な知識を学習する講習と力試し問題、検定試験(30分・50問)のセットです。問題は全て受講した講習内容から出題されます。

「UD 検定・中級」は、力試し問題とUD検定・中級試験(70分・129問)を受けていただきます。試験問題は、公式テキストブック「知る、わかる、ユニヴァーサルデザイン」に準拠して出題されます。受験される方は事前に公式テキストブックをご購入し、ご自身で学習された後に試験をお受けください。



中級受験に必須の
公式テキストブック

初級、中級とも合否は検定試験終了後すぐに判定され、合格者には認定証を発行します。

「第26回UD検定・初級」の申し込み受付は8月18日(木)まで、「第16回UD検定・中級」の申し込み受付は8月17日(水)までです。この機会に是非、ご参加ください。

※「第26回UD検定・初級」詳細・申し込みは[こちら](#)をご覧ください。

※「第16回UD検定・中級」詳細・申し込みは[こちら](#)をご覧ください。

※「オンライン第1回UD検定・初級」開催掲載のNewsletterは[こちら](#)をご覧ください。

※「オンライン第1回UD検定・中級」開催掲載のNewsletterは[こちら](#)をご覧ください。



IAUD 2022年8月の予定

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11 山の日	12 事務局 夏季休業	13	14
15 事務局 夏季休業	16	17 第16回UD検定中級 申込締切	18 第26回UD検定初級 申込締切	19	20	21
22	23	24	25 14:50~ 衣のUDPJ 産業技術研究センター	26	27	28
29	30	31 IAUD国際デザイン賞 2022申込締切				

次号は9月上旬発行予定

特集:IAUD国際デザイン賞2021受賞紹介⑦ほか

一般財団法人国際ユニヴァーサルデザイン協議会
事務局:〒225-0003 横浜市青葉区新石川2-13-18-110
電話:045-901-8420 FAX:045-901-8417 e-mail:info@iaud.net